



ウクライナのプラネタリウム解説員

足立区には多くのウクライナから避難^{ひなん}して来た人たちが滞在^{たいざい}しています。そのなかにハルキウ市のプラネタリウム解説員オレナ・ゼムリャチェンコ（Olena Zemliachenko）さんがいます。戦争が始まってすぐにハルキウプラネタリウムは閉鎖^{へいさ}になり、解説者は全員避難しました。



ギャラクシティのコンソールのオレナさん。
2023年2月、さいとうみわ撮影。

オレナさんと夫のミハイルさんは、チェコとポーランドを経て2022年4月30日に日本に到着します。8月には、足立区竹ノ塚を定住地と定め、ギャラクシティへもたびたび遊びに来られるようになりました。都内在住の避難者とそのお子さん向けの投影を企画し、その第1回目が実現したのは、国際科学映像祭ドームフェスタが行われた今年2月のことです。それから熊本、渋谷、船橋、倉敷、名寄と日本各地で、オレナさんの投影が行われ、ギャラクシティでは来る11月5日に4回目の投影を行います。

最初は、日本のプラネタリウムと違うウクライナの特徴を強調した投影を期待しましたが、実はオレナさんのプラネタリウムは、日本のプラネタリウムに良く似ているということを再発見しました。違う部分より同じところがとても多かったのです。プラネタリウム関係者としては親しみが持てるところです。

11月の投影は、挑戦^{ちようせんてき}的な試みとして、星空の解説部分をオレナさんが、自^{みずか}らの日本語で行います。これは、オレナさんにとっても、ギャラクシティのスタッフにとっても新たな挑戦です。戦争が終わって帰国できる日が来るまでには、日本語で全ての解説が行えるようになりたいと、オレナさんも意気込んでいます。

2023年10月16日記 ^{かいせつじん}（解説員：田部一志 ^{たべいし}）